「人と環境の調和がとれた生活空間」

公園という言葉はいつ頃出来たのだろうか．自然の中で生活していた人々にとって，公園という概念はなかったはずである．しかし，便利さや効率を追求した結果，都市部では，コンクリート構造物とアスファルト舗装に囲まれた環境になってしまい，都市部においても自然に触れる空間として，公園建設や緑地化が進められている．しかし，実際は公園の中でも自然に触れることが出来ることは少なく，都市部の子供たちにとって「メダカ」などの動植物は童謡の中だけの生き物となっている．

このため，都市部において，本当に自然環境と触れあうことのできる空間というものが必要なのではないだろうか．また，このような空間は，ストレスから開放され，やすらぎを見出す場所としても必要ではないだろうか．

都市部に生活する我々にとって，自然と触れ合うことができる場所が身近にあるということは，非常に有意義なことと考える．

私は，自然と触れ合うことが出来る空間というのは，目で見るだけではなく，虫の音や鳥のさえずりが聞こえ，草花の香りを嗅ぎ，風や水の冷たさを肌で感じることのできる空間であると考える．

自然と触れ合える場所をイメージすると，自然を感じることが出来る公園とは，以下のような条件が必要と考える．

① 景観は自然の谷あいや雑木林に近くなるようにする．（このためには，ある程度の広さが必要.）

② コンクリート等の人工物の使用は避ける．

③ 繁殖させる動植物の種類は多様化を避け，実在する雑木林の生息状況をそのまま移すようにする．

④ 樹木は，鳥の餌となり得る実をつけるものが含まれるようにする．

⑤ 草花は出来るだけ外来種を避け，日本の固有種の中から予定地の気候に合うものを選ぶようにする．

⑥ 親しみやすくするために，「つくし」や「タンポポ」，「レンゲ」など童謡で子供達が聞いたことのある植物が含まれるようにする．

⑦ 動物としては，虫の音や鳥のさえずりが感じられるように，鳥類，昆虫，魚類などが生息できる環境を整える．

⑧ 自然と触れ合う空間を多くするが，一部には，動植物を保護するために立入り禁止区域も設ける．

実際は，人工的に公園を作るのではなく，自然のままの野山を保存できることが望ましい．しかし，既に開発の進んでいる都市部においては，自然に触れ合うことの出来る場所というものを創造していく必要がある．

便利さや効率を求めることは悪いことではなく，時代に合った暮らしをおくるのは当然のことであろう．しかし，人間も生きものである限り，やはり自然環境と触れ合うことは必要なことであり，大都市圏において自然環境と触れ合うことの出来る公園が身近にある空間は，暮らしやすい環境ではないだろうか．